

令和 5 年 6 月 14 日現在

機関番号：42713

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2022

課題番号：19K10990

研究課題名（和文）医療的ケアが必要な子どもの支援の現状と課題

研究課題名（英文）Current Situation and Challenges for Children with Medical Care Needs

研究代表者

恩田 清美（ONDA, Kiyomi）

神奈川県立短期大学短期大学部・看護学科・教授

研究者番号：50574183

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,700,000円

研究成果の概要（和文）：近年、小児医療・周産期医療が進歩し、退院後在宅で生活する医療的ケアの必要な子どもは増加傾向にある。医療的ケア児が社会の中で成長発達していくために、子どもを預ける場所の確保が子どもと家族のQOLの向上につながる。

本研究では、医療的ケア児を保育する保育所の看護師の半構造化面接と、医療的ケアの業務分析を実施し現状と課題を明らかにした。今後、医療的ケア児を受け入れる保育所のありかたを検討するための一助となったと考える。

研究成果の学術的意義や社会的意義

医療的ケア児を保育する保育所の看護師への半構造化面接調査より、保育所で医療的ケアを実施する困難や戸惑い。その困難を解決するための工夫や心がけていることが明らかになった。

また、医療的ケアの業務分析により1人の医療的ケア児に複数の疾患や障害があり、必要とする医療的ケアは多岐にわたり、医療的ケアの重複する時間帯があることが明らかになった。これらの結果は、今後の保育所における医療的ケア児の受け入れの一助になると考える。

研究成果の概要（英文）：With recent advances in pediatric and perinatal care, the number of children with medical care needs living at home after discharge from hospitals has been increasing. In order for children with medical care to grow and develop in society, securing a place to care for them will improve the quality of life of the children and their families.

In this study, we conducted semi-structured interviews with nurses at nursery schools that care for children with medical care and analyzed the operations of medical care to clarify the current situation and issues. We believe that this study helped us to examine the ideal form of daycare centers that accept children with medical care in the future.

研究分野：小児看護学 家族看護学 医療安全 医療政策

キーワード：医療的ケア児 保育所 看護師 医療的ケア業務分析

1. 研究開始当初の背景

在宅で生活する医療的ケアが必要な子どもは増加傾向にある。在宅で養育する場合は家族の疲労、負担が大きい。子どもと家族のQOL向上のために継続した保健・医療・福祉の連携と包括的支援が社会的に重要な課題である。医療的ケア児の成長発達を促すためには、同年代の子ども達とのかかわりは大きな意味がある。

しかし、医療的ケア児を保育している保育所は少ない。本研究で保育所における医療的ケア児の医療的ケア実施の現状と課題を明らかにすることで、今後の保育所における医療的ケア児の受け入れの一助としたいと考え実施した。

2. 研究の目的

医療的ケア児を保育している保育所の看護師の現状と医療的ケアの実施状況を明らかにし、安全で質の高い医療的ケア児の保育を検討する一助とすることを目的とした。

3. 研究の方法

(1) 医療的ケア児を受け入れてる保育所の見学および保育所の看護師へのプレインタビューを行い、半構造化面接調査のためのインタビューガイドを作成した。

(2) インタビューガイドを用いて、医療的ケア児を受け入れている保育所3か所で3名の看護師に、6項目の半構造化面接を実施し内容分析を行った。

(3) 医療的ケア児をケアしている保育所3か所を見学し、医療的ケアの実施状況を観察した。実施されている医療的ケアの内容と実施時間について「医療的ケアの実施チェック票」を作成し、3か所の保育所の看護師23人に10日間記載してもらい、医療的ケアの内容と実施時間を分析した。

(4) 半構造化面接と医療的ケアの業務分析の結果から、質問紙を作成し3か所の保育所の看護師にパイロットスタディを実施した。11人の看護師より回答を得て、質問紙の妥当性を検証した。

倫理的配慮として、該当する調査において対象者には研究目的・内容、自由意思による参加の保障、同意撤回の自由、同意の撤回に伴い不利益がないこと、個人のプライバシー保護、データの厳重管理等について書面および口頭で説明し同意を得て実施した。本研究は研究者の所属機関における倫理委員会の承認を得て実施した。

4. 研究成果

(1) 半構造化面接による成果

医療的ケア児を保育する保育所3か所で各保育所1人、合計3人の看護師に半構造化面接を実施し逐語録を作成した。語りから抽出された内容を解釈し文脈をコード化した結果176のコードを抽出した。176のコードを意味内容で分類した結果、45のサブカテゴリー、11のカテゴリーが形成された。本報告書では以下の2項目について述べる。

「他職種間の情報共有と連携」では、23のコード4つのサブカテゴリー、2つのカテゴリーが形成された。ここでは主に保育士との関係が語られていた。看護師は保育が優先ということを感じ、看護的判断の伝えにくさを感じていた。それらを改善するために共有ファイルや全体ミーティングの活用、口頭での情報共有、保育計画の確認、保育士とお互いを尊重しあいながら伝えるなどの工夫が明らかになった。医療的ケア児を保育所でケアする看護師は、看護師の役割を明確にするとともに、他職種(主に保育士)と協力・連携する調整能力や、さらなるコミュニケーション能力が求められることが示唆された。

「医療的ケアに携わる看護師が心がけていること」では、17のコード、4つのサブカテゴリー、2つのカテゴリーが形成された。看護師は集団生活の中で、子どもがその子なりに成長発達できるように医療の専門職として、子どもが良い状態で保育に参加できるように支援していた。また、医療的ケア児は状態の悪化が速いことから予測されるリスクを念頭に置き、子どもの小さな変化を見逃さずチームで情報共有していた。医療的ケア児の保育にはリスクはあるが、看護師がいつもと様子が違うという感覚を声に出し共有することが、リスクを予測し備えることになり、より安全な保育を実施することにつながることを示唆された。なお本研究は学会で発表し周知を図った。

(2) 医療的ケアの業務分析の成果

「医療的ケアのチェック票」を用いて、複数の医療的ケア児を複数の看護師が保育する保育所3か所で看護師23人に10日間の医療的ケアの実施状況を調査した。

実施している医療的ケアの主なものは、呼吸管理（気管内吸引、鼻口腔吸引、人工呼吸器の管理、気管切開部の処置、人工鼻の交換、吸入、酸素流量の管理、パルスオキシメータの装着・測定等）、経管栄養管理（胃内容物の残量確認、経管栄養の注入、経鼻栄養チューブの再固定、胃瘻ケア等）、ストーマ管理（ストーマケア、ストーマ交換等）、血糖の管理（血糖測定、血糖値確認等）が多かった。

また、医療的ケアが重複する時間帯は登園時、昼食時、午睡覚醒からおやつまでの時間であった。そして、同じ時間帯での4つ以上の医療的ケアの重複は35件あり、7つの医療的ケアの重複もあった。

本研究では複数の看護師が複数の医療的ケア児の医療的ケアを実施していた。保育している子どもの疾患や障害の種類によって医療的ケアの内容は異なり、1人の子どもの複数の医療的ケアが実施され、同じ時間帯に複数の医療的ケアが重複していることが明らかになった。

保育所では1人の看護師が医療的ケア児の保育を実施していることが多いと報告されている。医療的ケア児に実施する医療的ケアは多岐にわたり、医療的ケアの重複する時間帯があることから、看護師が医療的ケアを安全かつ確実に実施するためにも複数の看護師の配置や、医療的ケアが重複する時間帯にパートタイムで看護師を活用する、保育士による医療的ケアの実施などの必要性が示唆された。なお、本成果は雑誌論文に掲載し周知を図った。

(3) 質問紙調査の成果

半構造化面接と業務分析の結果から質問紙を作成し、医療的ケア児を保育する3か所の保育所に勤務する看護師にパイロットスタディを実施した。11人の看護師より回答を得て、質問紙の妥当性を検討し、質問紙を改定し質問紙調査を実施する準備をしていた。この段階で、Covid-19の感染拡大に伴い調査が難しくなったため中止とした。そのため医療的ケア児を受け入れている保育所への質問紙調査が未実施となっている。

今後は医療的ケア児を保育している保育所の看護師を対象に、質問紙調査を実施する必要がある。さらに、医療的ケアを実施している保育士を対象とした調査を実施する必要があると考える。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 恩田清美 上松恵子 中垣紀子	4. 巻 82
2. 論文標題 保育所における看護師による医療的ケアの業務分析	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 小児保健研究	6. 最初と最後の頁 61 68
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 恩田清美
2. 発表標題 医療的ケア児と重症心身障害児を保育する保育所の看護師と他職種との医療的ケア児に関する情報共有と連携 - 看護師の語りから -
3. 学会等名 日本小児看護学会第31回学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 恩田清美
2. 発表標題 医療的ケア児と重症心身障害児を保育する保育所の看護師が医療的ケア児のケアで心がけていること - 看護師の語りから -
3. 学会等名 日本小児看護学会第31回学術集会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	上松 恵子 (UEMATSU Keiko) (30612501)	和洋女子大学・看護学部・准教授 (32507)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	中垣 紀子 (NAKAGAKI Noriko) (10300055)	医療創生大学・看護学部・特任教授 (32507)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関